

発言者	発言内容
事務局	資料1「行動計画の改定に係るスケジュール（案）」、資料2「愛知県環境教育等行動計画の改定 骨子（案）」、資料3「委員等意見の反映について（行動計画改定関係）」について説明。
千頭会長	<p>①全体の構成について、特に「地域コミュニティ」が主体として加わったことについて、②各主体に期待される取組に大きく抜け落ちがないかについて、③世代間の学び合いについての3点について主に議論したい。</p> <p>まず、①全体の構成について（資料2-1）をテーマとしたい。特に、地域コミュニティを主体として入れたことや、それに関連して、資料2-2の学校における環境教育の推進の中の地域コミュニティに期待される支援についてなど、地域コミュニティに期待される役割については議論が必要である。</p>
荻須委員	<p>中学校の現場の立場からみると、「地域コミュニティ」という項目が入ってきたことについては、分かりやすいと考える。もちろん一人一人が環境教育の実践者であるべきではあるが、子ども達が地域に帰って、自分たちの住んでいる地域環境を見た時に、自分がどうあるべきか、どう行動するべきか、ということを考えていくことが環境学習のひとつの柱であると思うので、地域コミュニティが項目として入ってくるのは、子どもたちが活動、実践をする場の位置づけとして意味がある。</p> <p>資料2-2では、地域コミュニティに期待される学校への支援として、「地域活動を活用した環境教育の支援や幼小中高の間をつなぐ環境教育の機会の提供」とあるが、幼小中高をつなぐことが地域コミュニティに期待される役割であると言うのは大きすぎないか、それが地域コミュニティの役割であるのか、と首を傾げるところである。</p> <p>「児童・生徒の参加する行事における環境負荷低減の実践」は、例えば資源回収等を中心とした活動等であり、分かりやすいと感じた。</p>
千頭会長	学校自身が、幼小中高お互いにつながろうとしているような気はするが、それを学校自身が行うのか、地域コミュニティに期待するのかというところもある。
荻原委員代理 川地指導主事	地域コミュニティに期待される支援を資料から具体的に想像できない。「幼小中高の間をつなぐ」ということは具体的に何を想定しているのか。
事務局	資源回収や、地域の体育祭などの地域での活動の中で、上の世代(幼稚

発言者	発言内容
服部委員	<p>園児は小学生が、小学生は中学生)が行っていることを見て、一緒に活動をしていくことで、世代間の学び合いができないかと考えている。違う学校とのつながりがある場所に地域がなるのではないかと思う。</p> <p>地域コミュニティが「幼小中高の間をつなぐ」点について。小・中学校は市町村の教育委員会が管轄しているのに対し、高校は県の教育委員会が管轄をしており管轄が異なっている。佐屋高校では地元と連携しながら環境教育を含めた様々な活動を比較的多く行っているが、他の高校の場合は、市町村の教育委員会や県の教育委員会が間をつなぐ方が強い。また、小・中学校間は比較的つながりやすいと思うが、幼稚園では、公立の幼稚園が少なく、独立した私立の幼稚園に通っている子も多い。</p> <p>高校側から小・中学校に働きかけることはあるが、地域コミュニティの方が間に入って、話を持ってきた際に断った例もあった。地域コミュニティを介して高校から小・中学校につながることはなかなかないので、学校間をつなぐ役割を地域コミュニティに求めるのは難しいと思う。</p>
千頭会長	<p>幼稚園ではそれぞれ地域とのつながりがあるような気はしているがどうか。</p>
松岡委員	<p>実態として、私立の幼稚園では、各幼稚園が独自にコミュニティ(子ども会、地域の団体、老人会等)それぞれとつながって活動をしていることが多い。</p> <p>一方で、地域のコミュニティが間をつなぐ役割を担っているケースもある。私が関わっている地域では、2つの集まりがある。1つめは、地元の中学校が中心になった中学校区のコミュニティ連絡協議会である。企業、学校、PTA、幼稚園、保育園等の団体が参加しており、環境問題について主に取り組んでいる団体も多く参加している。協議会の中で環境問題についての議論も多く行っている。その協議会を通してボランティア団体の方に幼稚園の行事に参加してもらったこともあり、間をつなぐ機会の提供が現実に行われている。2つめは、市のコミュニティセンターの運営協議会である。中学校区のコミュニティ連絡協議会と重なっているところもかなり多いが、様々な団体(子ども会、区の団体、老人会、保育園、幼稚園等)が参加していて、環境問題に限らず色々な地域活動をつないでいる。その中で環境活動も大きな取組として挙げられている。その2つの協議会の取組からいうと、資料2-2の地域コミュニティに期待される支援、に書かれていることは、実態と合っている印象を持つ。</p>

発言者	発言内容
浅野委員	<p>本年8月3日(木)に刈谷市で開かれた、愛知県主催の「愛知県野生生物保護実績発表大会」では、小中高校の生徒が実際に地域で活動した様子を発表していた。ササユリ、ギフチョウ、ホタル、イタセンパラなどの地域特有の自然の保護活動や、外来生物のオオキンケイギクやミシシippアカミミガメの駆除活動をしているが、学校だけでは成り立たず、地域コミュニティの協力が必要であるということが児童・生徒の発表から分かった。そのため、地域コミュニティに期待される取組の中には、「世代間の学び合いを意識、または重視した環境学習の推進」というような文言も一行入ってもよいのではないかと感じた。</p>
千頭会長	<p>地域コミュニティが学校に対して行う支援なのか、地域コミュニティ自身が世代間を超えて環境教育を担っていくという意味なのかというところもある。問題提起の前提として、この部分では、地域コミュニティが学校に対して行う支援という意味でイメージしていたが、浅野委員の話は、地域コミュニティ自身の中に多世代があるという話であり、地域コミュニティ自身の学びとして取り上げてよい気がする。</p> <p>地域コミュニティがそれぞれの主体に対して働きかける役割と、地域コミュニティ自体が果たす役割がある。セットで逆に書くだけなのかもしれないが。</p>
新海委員	<p>この計画はこれからの計画であり、現在の実態に合っているもの、もしくはこれから必要なものを書くべきだと考えている。今やっけていなくても必要なものは書いていくべきではないか。</p> <p>今の議論は、現在の実態についての議論であったが、今後は、地域コミュニティは幼小中高と必ず関わっていくものだと捉えている。高校も新・学習指導要領では、地域との連携が必須となってくる。この行動計画に書く必要があると考えるが、どこまで何を書くかは精査しなければならない。</p> <p>千頭会長が話したような、地域コミュニティが支援する側であっても、地域コミュニティ自体が活動をする側であっても、家庭、学校、社会から見れば、地域コミュニティは同じ役割をもつとを感じるだろう。そこをどう住み分けるかが愛知県らしい特徴になり、その部分を取り入れていかなければならない。具体的な例を挙げられないが、例えば、家庭を応援する地域コミュニティの活動の特色や、学校の場合の特色などと整理すると、それぞれの特色の違いと普遍的に同じ部分の両面が出てくるはずであり、その精査が必要となる。</p>

発言者	発言内容
篠田委員	<p>学校と地域コミュニティが協力する場合に、実際には、地域コミュニティ側から学校に話を持っていくことはなかなかできず、学校からの協力要請があった時に地域コミュニティ側が動くということが多い。</p> <p>現在昭和区では、5年生になった子どもたちが御器所大根をつくる活動を行っている。最初はたまたま学校側から相談があり、「じゃあ御器所大根を作れば?」「作るって、どうやるんですか?」というところから地域とつながり、連携が始まった。土づくりや畑を耕す作業については、地域の方や、昭和区の土木事務所も協力し、地域全員でお手伝いをしている。今では、そのプログラムが継続的に行われていて、御器所大根から歴史を学ぶことにまでつながっているが、これも学校側が地域に声をかけたので実現したものである。そのため、今回の新・行動計画には、ただ書いただけでやりなさい、ということではなくて、動かす仕組みを具体的に書かなければいけない。良いことが書いてあるね、でoshiまいになるのではなく、是非、どうやって動かしていくのかを書いてほしい。</p>
平井委員	<p>生涯学習課の立場でいうと、地域コミュニティが入ったのは非常に嬉しい。生涯学習課では、新たに「地域学校協働本部」の拡充に努めており、教育環境の充実、地域の教育力の向上や地域の活性化、関わった地域の方の生きがいややりがいにつながっていくということも踏まえて、超高齢社会に対応していくことを推進している。そういった意味合いでは、地域コミュニティを入れたということを感じている。</p> <p>協働や世代間の連携を考えた時に、地域コミュニティが外せない場になるのではないかと感じている。</p>
菅沼委員	<p>資料2-2の地域コミュニティに期待される学校への支援、では、学校での取組を促進する地域コミュニティの役割として、幼小中高校と一緒に行うことで学校間の連携がとれて、それぞれの学校間の環境教育が活性化するという意味で「間」をつかっているが、地域コミュニティにそこまで期待するのが難しいのか、それともこれからは期待していかなければならないのかを確認したい。子どもたち同士のつながりは地域コミュニティにおいても大きな役割だと思うが、それによって学校同士のそれぞれの取組がつながり、より活性化することを地域コミュニティに期待することを、計画にいれても良いのかどうかを確認したい。</p>
千頭会長	<p>地域コミュニティに関する今までの議論では、①それぞれの学校と地域との連携についての議論②学校と学校をつなぐ役割（例えば幼稚園と小学</p>

発言者	発言内容
新海委員	<p>校をつなぐのに地域コミュニティが役割を果たせられるのか) についての議論③地域コミュニティ自身(地域の中に大人から子どもまでいるが、地域の中で年代を超えて学べるか) についての議論の3つが混在していた。ここに書いてあるのは、①と②である。②の学校間をつなぐことを地域コミュニティの役割としたときに、誰がどうやって担うことができるのかを書かなければ、書いただけで終わってしまうという指摘もあった。</p> <p>地域コミュニティが何かという点については、例えば公民館やPTA 会長は地域コミュニティになりうる。子ども会も可能であると思う。地域コミュニティとなりうる範囲で計画に落とし込んでいくのか、愛知県の特徴として、地域コミュニティが幼小中高を超え、学区を超えてつなぐ役割を持つことができる機能を持つという面で記述するのか、後者は面白いと思う。</p> <p>よくバザーなどを幼小中高でつながってやっているが、その環境学習版として公民館やコミュニティセンターでそのような仕掛けをすることはできる。そういうことを目指し、可能にするために計画に記述するのかどうかではないか。</p>
千頭会長	<p>高校の場合、高校が立地している地域とつながることはあると思うが、生徒が通学している場所というと、あまりにも広いのか。</p>
服部委員	<p>結局小学校と中学校は交わっているが、高校となると全く違うところから人が集まってくる。佐屋高校は愛知県で一番西にある学校で、地元の生徒が通っている可能性が高いが、中には名古屋市から来る生徒もいる。そのような生徒は地元ではないため、地元の生徒と比べると思い入れが異なるように感じる。</p> <p>佐屋高校には農業科と家庭科があり、地元とのつながりがすごく強い。地域コミュニティはありがたい存在で、地域コミュニティからも高校からも上手く働きかけており、お互いウィンウィンの関係でやっている。夏に行われた愛知県主催の「愛知県野生生物保護実績発表大会」では、佐屋高校は愛知県知事賞をもらったがこれも地元の方の協力があったりしている。地域コミュニティと学校とのつながりは大変重要なことではあるが、管轄が同じ小中学校と、県立の高校とでどのようにつながっていくかというのは高校としても非常に難しく、それを地域コミュニティに求めるのは厳しいと思う。地域コミュニティとのつながりは非常に重要であり、計画に書くことはとても良いことだとは思いますが、小中と高校の間をつなぐ</p>

発言者	発言内容
千頭会長	<p>というのは地域コミュニティにとっては難しいと感じる。否定的な意見ではなく、つなげることができればすごく良いことであるとは思う。</p> <p>幼稚園から中学校までの議論と高校の議論では少し分けて考えたほうが良いか。</p> <p>高校の場合は、服部委員の話のように、商業科のある学校が地域と一緒に商品開発をするなど、職業科のある学校が地域とつながり色々なことをやっており、そういう意味での地域との連携はあると思うが、小中学校と高校をつなぐことを地域コミュニティに求めるのは難しいか。地域コミュニティが地域全体として世代を超えて子どもを育てるということは、中学校までは可能かもしれないが。</p> <p>新海委員の話では、何が地域コミュニティなのかという話があった。公民館はどうか、PTA については PTA の役員が自治会長だったりする可能性もあり、学校の側からとらえるが、地域コミュニティとしてとらえるのかということもある。PTA をどのようにとらえるのかは大事かと思う。</p> <p>3 ページの(ウ)では地域コミュニティについてたくさん書かれているが、ここに書かれている学校に期待される支援と、学校の方に書かれている地域コミュニティに期待される支援、というのは裏腹の関係ではあるが、同じであっては意味がないと思う。文章化する際は、ひたすら主語だけ変えるようなことで考えているのか。また、地域コミュニティを加えることにより、今までよりも書きやすそうではあるのか。</p>
事務局	<p>書きやすくなるかについては不安な部分もあるが、今まで、NPO 等とひとくくりにしていた時と比べると、いわゆる NPO 法人は目的のもとに集まっている集団で、営利を伴わない事業者に近く、逆に地域コミュニティは、もちろん営利は伴わないが、目的というよりは地域におけるあらゆることでつながっているという意味から行政に近い存在、公共の共の部分だと思った。NPO 等とひとくくりにしていたのは乱暴だったかもしれない。</p> <p>構造が複雑になっているが、両方向のことをそれぞれ書き分けていかなければならない。端に裏返しになるだけではなくて、学校から地域、地域から学校など、主語を変えるだけではなく、それぞれの特性に応じてしっかり書き分けていく必要があると思う。そのときに具体性が大切だと思うので各委員に意見を伺うことがあると思う。</p>
千頭会長	<p>資料 2-2 の 3 ページの(ウ)地域コミュニティの部分は、無理して全ての項目を埋めなくてもよいと思う。地域はとても広く、地域自身をもって</p>

発言者	発言内容
事務局	<p>いる資源や人材を活用してできることをすれば良い。もともとはその中で、今でいう環境教育が行われてきた。地域コミュニティはそれ自身としてやれることがあると思うので、そちらにウエイトを置き、他の主体に期待することについては無理をして書かなくてもいいような気はする。</p> <p>現在、項目だけで出しており、地域コミュニティがやることとその事業の取組よりも、他の主体から期待される取組のほうが多くなってしまっているように見えるが、まず地域コミュニティがどういうもので、何ができるのかをしっかりと書いたうえで、各主体に期待される役割を書いていきたい。ボリュームとしては地域コミュニティがどうかというところが主な内容にはなってくると思う。</p>
千頭会長	<p>資料2-1について確認したい。骨子(案)として、全体の構成を見ていくが、今回地域コミュニティを入れたので、それぞれのマトリクスの中に地域コミュニティが入ってきた。</p> <p>(3)のエの行政では、行政の取組を促進するために各主体に期待される支援が書かれているが、それをどうとらえるのかというところもやや議論があるか。</p> <p>全体の構成に限定して今からは議論を進めていく。</p>
新海委員	<p>そもそもの話にはなるが、5つの力の「体感する力」というのがどうしても気になる。「体感する力」という言い方をそもそもするのだろうか。また今回、「体感する」～自然の素晴らしさや環境の大切さを五感で「感じ取る」力という箇所が変わったが、五感で感じとる力と体感する力は違うのではないか。学校教育現場では同じなのか。</p>
平井委員	<p>私も気になったので、このような言葉を意見として出した。「体感する力」という言い方は一般的ではない。しかしここでの定義ということで、体感、理解、探究、活用、共働という二文字の熟語でシンプルな美しい形として5つの力を挙げており、内容を定義する形でまとめたのだと理解している。</p>
大鹿委員	<p>内容が問題なのではなくて、言葉として落ち着くかというところ。私自身も気にはなるが、他に良い言葉があるかというところが一番問題である。本来この部分は、「気付く」というところだと思うので、気付くという言葉を入れたいが、漢字2文字でうまくおさまる言葉がなかなかない。</p>

発言者	発言内容
千頭会長	委員の中で出してもらえれば。
松岡委員	幼稚園は、まさに体感でよいのか。
千頭会長	あまり違和感をもってはいなかった。
千頭会長	小中ではどうか。
荻須委員	大鹿委員が言ったように、内容としては分かりやすいと思うが、言葉として引っかかるかどうかの問題である。以前、「体感できる力」と書いてあったところは、できるという可能の能力に力をつけるのがおかしいと思い指摘した。単純に言葉の問題で、最近「力」をつけることが流行っており、世の中にたくさんあるので、つけたくなるということでもあると思う。今回資料2-2の1ページにあるように大和言葉を使って言い変えたので、少しすっきりしたと思う。体感する、と止めるのか、力までつけるのか、言葉としてより理解しやすいほうで行けばよいと思う。
千頭会長	体言止めにして、「体感、理解、探究、活用、共働」と後ろをとってしまおうという手もある。
篠田委員	私自身は、「体感」という言葉を「体験から感じ取る力」と表現するようにしている。今回、五感で感じとる力と後ろに説明が入っており、体験から感じ取る力ということをお願いしたので、これで良いと思う。
平井委員	資料2-1の骨子(案)にある、「体感する力」や「理解する力」という5文字の表現が外に出ていくことはあるのか聞きたい。新たに建てた定義があるのならば、この5文字の言葉がそのまま外に出ていくことはないかと理解しており、骨子(案)なので、このように書いてあると理解していたが。
千頭会長	資料2-2の1ページでは、力が入っていないが。
新海委員	資料2-1の学びを行動につなぐ「5つの力」に全てに力がついている標記が気になっている。説明があれば分かるが。
菅沼委員	こう書いた以上は、今どう考えているのかを別にして、このまま出てい

発言者	発言内容
事務局	<p>くことがあると思う。表現としてやめたほうが良いなら、「自然の素晴らしさや環境の大切さを五感で感じとる力」としておいた方がよい。</p> <p>力をつけるのかどうかも含め、5つの力の表現について事務局で整理していく。</p>
千頭会長	<p>資料の2-2の中では、篠田委員の発言の「体験」ということも説明の中に入っている。大鹿委員の発言の「気づき」という言葉は入っていないので、場合によっては「気づき感じ取る力」と入れると良いか。</p> <p>体感、理解、探究、活用、共働という表現で考えていくことで大筋はよろしいか。</p>
菅沼委員	<p>資料2-1の表記について、5つの力の表記に「力」を入れることが良いのか、委員の先生方の意見を確認したい。</p> <p>行政は短い言葉の表現を好むので、この表記を使う可能性が高い。誤解を招く形であるのであるならば、それを踏まえて事務局で検討したい。</p>
大鹿委員	<p>学習指導要領の中で使われているのは、「資質・能力」という言葉である。学校で使うのは「資質・能力」で、この計画で書かれているのは「力」となると、学校の先生たちは混乱するとは思う。かといって、「資質・能力」と置き換えればよいということではないので、「力」という言葉はあえて入れない方がいいような気がする。</p>
千頭会長	<p>大学教育でいえば、「コンピテンシー (competency)」という知識獲得力という言葉がある。市民レベルで考えれば、「獲得する力」というような表現か。</p>
大鹿委員	<p>どの人が読んで納得するかというところだと思う。</p>
千頭会長	<p>おそらく、資料2-2のように説明が書いてあっても「体感する力」のように省略されてしまうとは思う。</p>
新海委員	<p>「体感する」「理解する」「探求する」「活用する」「共働する」というのは、力をつけるための行為と捉えていた。「体感する」と感じられる力が高められる、捉える力をつけるために「理解する」などと読み解くと思っていた。「体感する力」とすることで、力へのイメージや認識が変わって</p>

発言者	発言内容
千頭会長	<p>しまう。愛知県として、感じとる力を育むために体感する力を育みたいということであれば、そういう意味で「体感する力」と書いている説明があればいい。「感性の育み」という教育においては、感性を力とは言わないのではないか。一般的に読んだ人が、感性を育むというのは行為と考えると思うが、それが力というのほどのような認識であるのかをきちんと説明できればよいのではないか。</p> <p>学びを行動につなぐ5つの力という意味合いが、そもそも何かということを確認した方がよいか。</p> <p>学んだことを行動につなげていくためにはどのような力が必要かという意味合いか。その意味で5つの力を表現したいということによいか。</p>
事務局	はい。
千頭会長	<p>そうであれば、体感することで学びが行動につながっていき、理解することで学びが行動につながっていくということである。</p> <p>そうであれば、例えば、「理解する」ことで学びが行動につながるが、「理解する」ために、「私たちの活動が環境に影響を与えていることを自分ごととして捉える力」が必要だ、あるいは「私たちの活動が環境に影響を与えていることを自分ごととして捉える力」がないと理解ができない、ということであるがこれでよいか。</p>
事務局	はい。
千頭会長	<p>今のようなことをベースにし、例えば「体験する」と、「自然の素晴らしさや環境の大切さを五感で感じ取る力」と、「学びを行動につなぐ」という目標目的との関係性を、書く必要まではないかと思うが、作業する時に意識したほうがよい。そこを事務局で整理してもらいたい。</p> <p>他に構成として、大きく抜けているような点はあるか。</p> <p>資料2-1の(3)のエ行政の追加された部分、(エ)行政の取組を促進するために各主体に期待される支援、の辺りについてはよいか。中身として何を書くかに係わってくるが、意地悪な言い方をすると、行政がやる施策に皆さん協力してくださいね、という風にも読める。</p>
事務局	行政では、県民の皆様の税金を使って、例えばダイコーの食品ロスの問題解決などを行っており、それは社会の課題であると思っている。県民の

発言者	発言内容
千頭会長	<p>皆様と共有し、課題意識を持ってほしいという思いはある。</p> <p>現実的には行政が打ち出している公共政策に対していろんな主体が協力すべきだということでもある。異論がなければ次に進みたい。資料2-2の4ページにはもう少し内容が書いてある。</p> <p>とにかく、同じ記述が2箇所出てくることにはならないようにしたい。</p> <p>各主体に期待される取組ということで、資料2-2のそれぞれの主体に対する取組の内容として、今の時点で大きく抜けていそうなところを指摘いただきたい。</p>
橋本委員代理 内藤課長	<p>事業者に期待される主な取組については特に違和感はない。</p> <p>行政の役割の中で、資料2-2の4ページに事業者に期待される支援という部分があり、行政の施策に事業者として協力するということは当然だとは思っているが、支援の内容が具体的すぎるような印象をもった。環境に配慮した商品・サービスの開発・提供というのは、事業者が自分たちの事業のためにやっていることであり、それが結果的に施策に協力していることにはなるのかもしれないが、「持続可能な社会の構築のために、事業者として環境保全に取り組む」程度の大雑把な表現でもよいのではないかという印象を受けた。書いてある中身が、事業者のやることに寄り過ぎていた気がした。</p>
千頭会長	<p>今の資料だと、他の主体に期待されることがたくさん出てくるように見えるが、本来はそれぞれの主体がやるべきことを多く書くということである。今の話は、事業者自身として環境配慮型の商品をつくるというのは当然であり、行政に言われたからやるということではなくて、事業者自身がやることなので、行政の箇所に「事業者に期待するのでこうしてください」とばかり書かなくてもいいのではないかという話であった。それは他も一緒かもしれない。</p> <p>資料2-2の3ページのウ行政について、ここでは、市町村と県を両方足しているということであるが、それを踏まえ、(イ)市町村に期待されること・取組 (ウ) 県に期待されること・取組・主な施策、についてはどうか。</p>
猪子委員	<p>行政の役割についての、書きぶりとしてはこんな感じだろうという印象を受けている。役所という組織の体制上、各主体に対する支援・啓発が関わり方としての主体になってくると思うので、その幅がどこまで広げられ</p>

発言者	発言内容
古鷹委員	<p>るかということだと思う。項目としてはここに挙げられているところで良いと思う。</p> <p>5つの力について、千頭会長から体言止めでどうか、という話があったが、「〇〇力」としてしまえば、その後続く言葉がすっきりすると思った。</p> <p>地域コミュニティについては、昨今、地域コミュニティそのものが弱体化しており、活動単位である町内会などの加入率も減少している現状がある。地域での人と人とのかかわりあい非常に希薄になってきている状態で、地域コミュニティが新たに役割を与えられたときに、どこまでかかわってもらえるのかということが大きな課題であると思う。そんな状況下では、負担となるような深さを求められない関わり方についての研究が必要かと思う。</p> <p>市町村に期待されること・取組についての、構成は良いと思う。ただ、資料2-2の3ページのウの行政の(イ)の中の「環境学習等を行う各主体への支援(情報収集・提供、教材の貸与、表彰制度など)」といろいろあるが、ここまで細かくは書かなくてもよい気がした。</p> <p>5つの力について、「体感」という言葉が気になるということであるが、一番目に「体感」という言葉が来てしまうので違和感があるように感じやすいような気がした。資料2-2の1ページの表現「体感する」で表現を同じにすれば、特に違和感はないような気はした。</p> <p>地域コミュニティの活動は最近活発になってきているので、地域コミュニティの役割について提案させていただいたが、ごみゼロ運動や、各地域のお祭りなど、環境に特化したものではなくて、何かをやることで環境につながることを皆さんに学んでもらえれば良いのではという気がする。</p> <p>地域コミュニティと幼小中高とで同じ地区の中にあるものについては、ある程度小学校から中学校ではつながりがあるが、高校ではつながりがないという気がした。</p>
岩崎委員	<p>小中学校とは違い、高校はつながる方法が難しいと思う。特に私立は行政からのアプローチがない。取組を進めるときには、誰かがやれといっても動かず、主体・コーディネートする人が誰なのか、ということを決めることで一番動く。</p> <p>うちの学校では、裏の川の清掃活動からいろんな活動が始まり、今では生物や植物の標本作りにつながっている。その中で取組の主体が変化していった。もともとは、大学の副学長が、その地域の団体と関わりを持っていて、高校に話がきた。その時の主体は地域だが、地域から直接話を持っ</p>

発言者	発言内容
千頭会長	<p>てくるのは難しく、大学を挟んで高校に話が来た。その時に理科の教員がやりたいと言い、ちょうど県環境部で「森と緑づくり税」による助成制度があり、それを活用して、生徒が鮎を捕まえに行ったり、川の清掃活動をしたりした。そこで、別の理科の教員が、せっかくここまでやったのだからと、標本作りを始めた。そこでは、誰がやらせるかということではなくて、誰が仕掛けるかということであった。それぞれの地域の特性もあるが、行政、学校、地域が集まった時に、こんなことやると面白いという、仕掛けを創り出すような仕組みがどこかに埋まっていると面白いと思う。</p> <p>コーディネーターが重要だということは言うまでもないが、言い出した人を応援する仕組みが大切という指摘があった。誰かが手を挙げた時に、「この指とまれ」に対してそれを形にする支援するような仕組みが大事かもしれない。</p>
浅野委員	<p>資料2-2の2ページの(2)学校における環境教育の推進についても少し踏み込みたい。学校間の連携について、もちろん高校では難しいかもしれないが、義務教育である小中学校の段階では、山とまちの学校の連携、中山間地域とまちの学校の連携というような学び合い、環境教育の相互の連携ということがどこかに入っても良いのではないかなと思う。</p> <p>「イ 学校に期待される主な取組」の中に「地域やPTAを始めとする多様な主体との連携・協働による環境教育の実施」とあるが、「他の学校や」といった文言や、「学校間の」などの学校同士の学びについても書かれると良いと思った。</p>
千頭会長	<p>学校が主体である場合に、必要性を感じれば他の学校と連携するという意味で、「イ 学校に期待される主な取組」の中に学校同士の取組について書き、地域コミュニティが主体の場合は、「ウ 学校での取組を促進するために各主体に期待される支援」の「(エ) 地域コミュニティに期待される支援」の中に書く。誰が言い出し、主体的に動くかによって意味合いが違うので、学校間のつながりについて、「イ 学校に期待される主な取組」の箇所にも書けると良いか。</p> <p>最初に議題として挙げていた、世代間の学びについてはどうか。資料2-2の4ページの「3 世代に応じた取組の拡充」について。(2)の世代間の連携・協働がここだけではなく、手前の特に地域コミュニティのところなどでは書けたらいいと思うが。</p>

発言者	発言内容
新海委員	<p>資料2-1の骨子(案)で、第3章の1から3では、個人である一人の人間が、社会や家庭や学校といったフィールドの中で、様々な主体と学びながら行動、力を育んでいくというストーリーになっている。3から5については、それとは別に、愛知県が「世代」や「連携・協働」にこだわって特出しして書いていると捉えていた。全てのライフステージでの学びの機会をどのような仕組みで作っていくか、連携・協働に世代間の連携は入ってはいるが、世代間をつなげていく仕組みをそれぞれのフィールドでどう作っていくかを強調する必要があると特出しして思っていた。3までは仕組みというよりは個別で実施するべきことである。仕組みの話がないと言われていたが、3、4、5において、どうつなぎ合わせて仕組みにしていくかを記述してもよいのではないか。</p>
事務局	<p>2までと3以降の書き分けについて。ご指摘の通り、3、4、5については別の章立てにすべきかとは思った。今までの施策の展開の中で、一部記述が出てくるがさらに連携・協働や世代に応じた取り組みの拡充についての「仕組み」に着目して書くこととしていた。</p>
千頭会長	<p>3章のところでそれぞれの主体の取組について書き、新しく4章をつけて今の3、4、5について書くというやり方もあるが、今のところはこのままでいくということによいか。位置づけが分かるようにしたい。2で書いてあることを、3から5で特記して書くのか、それとも、「取組」と「仕組み」というように分けるのか。</p>
荻須委員	<p>資料2-2の2ページの、浅野委員の学校間の連携を入れるという意見については賛成したい。また、(2)のイの学校に期待される主な取組についての7つの項目が、煩雑で重複している部分もあるような気がした。たくさん書いた方が良いのか、整理したほうが良いのか。</p> <p>例えば1つ目「各教科や「総合的な学習の時間」を活用した探究的な環境教育の実施」と、6つ目「ESD カレンダーなど、環境の視点で教科感をつなぐ取組の強化」が、授業という観点からいけばやや似ている。また、2つ目「ESD カレンダーなど、環境の視点で教科感をつなぐ取組の強化」と、3つ目「児童生徒と生活との関わりや、安全・安心に関する環境教育・探求の実施」を両方書く必要があるのか。「体験学習」や「生活への関わり」を強調したいのかとは思いますが、内容的には似ているので整理してもよいと思う。4つ目「地域やPTAをはじめとする多様な主体との連携・協働による環境教育の実施」と、5つ目「家庭や地域での学び合いに発展する</p>

発言者	発言内容
	<p>環境教育の実施」では、家庭と地域が出ており似ているが、中部電力さんのような専門的な知識を持つ人たちもいるので、4つ目の中では、「多様な主体」という表現ではなく、「専門機関」のような表現がでてきても良いかと思った。7つ目「課外活動や行事における環境負荷低減の実践」については、要は資源回収などだとは思いますが、河川環境の草刈り、ごみ拾いなどや、河合中学校でも「愛知県野生生物保護実績発表大会」に出ており、それぞれ多くの学校で大なり小なり特徴的な環境保護・保全活動をやっていると思うので、それを書いてもよいと思う。具体的書きすぎると全体像が見えなくなることもあるし、整理してもよいと思う。書いてある一つ一つは間違いがないとは思いますが、どういう書きぶりにするか検討しても良いと思う。</p>
千頭会長	<p>文章を作る段階で、作業をしながら整理をしていくということで良いか。</p>
荻須委員	<p>良い。</p>
大鹿委員	<p>地域コミュニティについて、母体がはっきりしていない。大きく見るか、小さく見るか、誰でもできることなのか、特定の人しかできないのかをはっきりしなければならない。町内会や自治会などの「人の集まり」を指すのか、公民館や図書館などの「場所」を指すのかで、展開の仕方や活動の仕方がすごく変わると思う。他の主体ではそんなに変わらず、学校では子どもの成長を育むことが主で、企業では対企業であると思う。地域コミュニティだけは、人によって捉え方が変わるので、はっきりさせなければならない。地域コミュニティがそのままNPOになる場合もあり、足場を明確にしてもらえるとよい。</p>
千頭会長	<p>市町村から見た時は、地域コミュニティが公民館や生涯学習センター、自治会館のような場を指すのか、組織や人の集まりを指すのか。</p>
猪子委員	<p>狭義で捉えるか広義で捉えるか違いはあると思うが、一般的に「地域コミュニティ」といった場合は、町内会や自治会などの「人の集まり」であると思う。そのような団体であるほうが圧倒的に地域コミュニティとして各家庭にもものは言いやすい。</p>
千頭会長	<p>一方で、公民館は本来生涯学習拠点であり、どのように機能、構成する</p>

発言者	発言内容
平井委員	<p>かについては県の生涯学習課の取組もあるが、社会教育法でいう公民館ではなく、地域の核としてどうするかという議論が全国であると思う。今のところ、公民館のような「場」の位置づけの議論が協議会の中ではなされていない。公民館が貸し室業務化している地域も多くあると思うが、場としての公民館の活用はできるのか。</p> <p>公民館数自体は減少傾向にあり、公民館をコミュニティセンターにして社会教育法の縛りをなくし、動きやすくする場所が増加している傾向があり、難しいと思う。しかし、活動が盛んなところは上手に地域を巻き込み様々な活動を行っている。今一度、そういったものを見直していこうという動きは全国的にも起こっている。</p> <p>生涯学習課が行っている「地域学校協働活動」も、最終的には、地域の実情に合わせ、どのような組織を立ち上げるかであると思う。地域の実情に合わせてとしか言えないが、非常に大きな役割を果たす可能性があると感じる。</p> <p>また、学校間の連携についてを考える場合には、地域コミュニティもだが、「地域」そのものをどのエリアで捉えるかが非常に大切である。公民館活動が継続的に盛んに行われている地域は、基本的に小学校区に一つの公民館があるので、動きが非常にとりやすい。しかし中学校区単位のところもある。生涯学習課が進めている「地域学校協働活動」でも、本部が小学校区単位のところも中学校区単位のところもある。あるいは本部自体は市町のレベルに置き、そこがコーディネーターのような役割となり、それぞれの校区との連携体制をとっているところもある。地域やコミュニティをどのように捉えていくかが非常に難しいと思う。</p>
千頭会長	<p>大鹿委員からも問題提起があったが、地域コミュニティをどのように捉えるかをはっきりさせる必要がある。人により捉え方が異なる可能性がある。いわゆる小学校区なのか、中学校区なのか、町内会や自治会の単位であるのか。単位は学区がイメージしやすいかとは思いますが、地域側として学区の単位で何ができるかを考えると、「学区連合会」のようなものになるのだろうか。しかし、「学区連合会」自体は調整が主となり動く主体にはなかなかならず、主体となりうるのはもう少し小さな値だろうか。地域コミュニティの捉え方を考えることが、誰が主体となって取り組むのかということにもつながる。</p>
浅野委員	<p>地域コミュニティの単位について、兵庫県川西市では「低炭素まちづく</p>

発言者	発言内容
千頭会長	<p>り計画」として、低炭素社会を目指したマンション群を造っている。そこではマンションの集会室がひとつの地域コミュニティになっており、地域の皆さんだけでなく、環境コンサルタントも関わり、毎年 11 月に開かれる「かわにし音灯り」という市民が運営・企画するイベントではワークショップも行っている。「かわにし音灯り」は、マンション群が造られる 10 年前から地域の若手の人々が始めたもので、そこに新たにマンション群に引っ越してきた人たちが加わり、連携が今始まりつつある。地域コミュニティは変化していくもので、小さい単位のものもあるのではないかと感じる。</p> <p>計画を書く時に、誰が主体であるのかを想定されなければ、ただ書いただけで終わってしまう。地域コミュニティは非常に大事な主体であるが、抽象的な概念である。中身を書いていく際に、自治会を想定するのか、公民館のような本来地域の拠点となる施設を活用するのか、学区単位であるのかなど、空間的な大きさや主体を明らかにしながら書いていくこととするのが、1 つにしぼるよりは良いか。そうしてうまく整理ができなければその時考えていく方向で書き進めていくことが良いか。昔の自治省がいったコミュニティは、小学校単位も中学校単位も両方あり、地域によって異なる。場や空間の広がりそれぞれ意識した施策や取り組み事例を書くことに一旦して、どう整理するのか次回考えることとする。</p>
新海委員	<p>第 3 章の「5 行動につなげるための環境学習等を効果的に実施するための工夫点」と第 4 章が最も重要だと思っている。</p> <p>第 4 章の「1 推進体制」と「2 進行管理」は次回議論していくところだと思うが、多様なステークホルダーが存在するからこそ、今までのような推進体制ではなくなるのではないか。進行管理については、前回までは何年かに一度アンケート調査を行っていたが、学びが行動につながっているかをどのような手法で評価し、可視化し、県民に知らせるのかを議論したい。</p> <p>第 3 章の「5 行動につなげるための環境学習等を効果的に実施するための工夫点」は非常にユニークな記述であるが、だからこそこだわらなければならないところである。(1) から (4) に書いてある内容は、おそらく各主体に対する工夫点で、仕組みに対する工夫点はまだ書かれてない。各主体の役割の工夫点だけを記述するのであればこのままで良いが、全体的な仕組みや、学びを行動につなげるための工夫点にするならば、もう少し追記しなければならない。次回議論できたら良いと考えている。</p>

発言者	発言内容
千頭会長	<p>第4章については、この場がある意味「進行管理」を担う組織である。県全体としてこの場が担う役割もあるが、市町村それぞれが環境学習の計画を立て進行管理を行う組織をもっているので、小学校区、中学校区で取り組むことは、市町村の進行管理にゆだねるべきかもしれない。この場で全ての進行管理を行うことはとても無理だが、県全体の進行管理と、市町村での進行管理を意識した上で、次回議論したい。</p> <p>第3章の「5 行動につなげるための環境学習等を効果的に実施するための工夫点」は、今書かれているレベルのものだけではないと思う。何を書くか大変難しいが、希望としてはこれが新しい環境部の施策の核となり、予算がついて施策につながれば良いと思う。</p> <p>次回11月22日(水)の第3回協議会までに、文章化をし、骨子自体もメリハリをつけ、途中段階でも良いので中間報告をすることができれば。資料2-2の修正と補強をした段階で中間報告をできると良い。委員の意見を受け、次回の第3回協議会で、素案として議論できるとよい。</p> <p>議題については以上とする。</p>